

日本最高峰のダンスコンテストへ 小林小の深江遥斗さんが出場



ダンスチーム HANGOUT は昨年4月に結成。深江さんは、チームの練習拠点の鹿児島県いちき串木野市に通い、練習を重ねてきました

3月7日、日本最大規模・最高峰のストリートダンスコンテスト「スーパーキッズダンスコンテスト」の全国大会に出場する HANGOUT の深江遥斗さん（小林小6年）が市長を表敬訪問しました。HANGOUT は昨年の中学生部門九州予選で優勝。深江さんは「みんなが憧れる大舞台。自信を持って全力で、笑顔でがんばりたい」と話していました。

日本公衆電話会が災害時の行動を 取りまとめた手引きなど寄贈



寄贈は地域の安全・安心への貢献活動の一環で行われたもので、同会では小学生などを対象に緊急通報のかけ方を学ぶ「公衆電話教室」も行っていきます

3月9日、公益財団法人日本公衆電話会から災害時の行動をまとめた「災害時連絡方法の手引き」や、子どもたちが安全・安心な生活を送るための「こども手帳」、「ネット安全 Guidebook」が寄贈されました。日本公衆電話会の福島洋一本部評議員（写真中央）は「手引きは地域の安全・安心のための啓発活動にご活用いただきたい」と話しました。

サミットを前に味覚でドイツを知る 市内小中学校でサミット給食を提供

3月2日、G7サミット宮崎農相会合を給食で盛り上げようと、小林東方学校給食センター所管の小中学校で、ドイツの郷土料理「シュペッツレ（パスタ料理）」と「ゲミューゼズッペ（野菜スープ）」が提供されました。ドイツ出身の国際交流委員アントニア・シュルトさん協力のもと、本場の味が再現され、児童は味覚でドイツを楽しみました。



西小林小学校では、アントニアさんが全校児童を対象にドイツの食事や文化について講演。その後、6年生との交流給食も実施されました

花き共進会優等の佐藤和憲さん 農林水産大臣賞を受賞



佐藤さんは農林水産大臣賞のほか、宮崎県知事賞と宮崎県議会議長賞をあわせて受賞しました

2月6日、県農産園芸特産物総合表彰式が県庁で行われ、花き共進会経営部門優等のキク農家佐藤和憲さんが農林水産大臣賞を受賞しました。また、3月3日に小林総合庁舎で行われた表彰式では、茶共進会の普通蒸し煎茶部門1等園田悠輔さんと、加工用米・飼料用米多収コンテスト加工用米の部2等の富吉龍洋さんへ表彰状が手渡されました。

大阪産業大硬式野球部が3年ぶりの合宿

2月17日～2月22日、大阪産業大学硬式野球部が小林総合運動公園野球場で冬季合宿を実施しました。同大は平成26年度から市内で合宿を実施しており、今回はコロナ禍の影響で3年ぶり。2月17日に歓迎セレモニーが行われ、選手へ小林市産豚肉10キログラムが贈られました。



フェスティバル わのしずく Fes. を3年ぶりに開催

2月18日、市出身・在住の音楽家によるコンサート「こばやしわのしずく Fes.」が3年ぶりに開催されました。第1部では中村朱里さん（ファゴット）と今屋早紀子さん（ピアノ）、第2部は大出水陽香さん（シンガーソングライター）が出演し、観客を魅了しました。



西諸地域で暮らす面白さ考える

2月22日、30歳前後の西諸出身・在住者対象とした「にしもろ2分の3成人式」を開催しました。Uターンの機運醸成や地域への愛着を高めてもらおうと2年前から西諸3市町で開催しているもので、参加者は西諸で活躍するパネリスト3人の話に耳を傾けました。



あま〜い「台湾バナナ」をプレゼント

2月22日、学校法人神戸学園（蔣恵萍総長）が市内の小中学校12校の全児童へ「台湾バナナ」約2600本をプレゼントしました。これは、台北駐福岡経済文化弁事処（陳銘俊総領事）の紹介がきっかけで実現したもので、日本と台湾の交流を目的として贈られました。



地域医療の担い手として期待 小林看護医療専門学校で卒業式

3月2日、小林看護医療専門学校の卒業式が文化会館で挙行されました。34人の生徒が看護師としての決意を胸に、親しんだ学舎に別れ。卒業生を代表して、澤原翔さんが新型コロナの影響で苦労した3年間の経験から「今後どのような困難があろうとも私たちなら乗り越えられる。そう思い続け、共に頑張りましょう」と声を掛けました。



式で志戸本宗徳校長から卒業証書が手渡された卒業生。34人中22人が西諸地区での就職が決まっており、地域医療の担い手として期待されています

地域づくりを一步進めるための研修会

2月11日、住民による意欲的な集落づくりを目指す研修会が開催されました。坂元区中島信行区長、吉都線に観光列車を呼ぼう小林実行委員会吉村秀昭会長らによるパネルディスカッションなどが行われ、コロナ禍で制限された中での活動など意見交換を行いました。



自動車整備振興会が下敷きなどを寄贈

2月16日、自動車整備振興会小林支部から交通ルール下敷き・防犯定規各370枚が寄贈されました。寄贈は今年で15回目、下敷きなどは小学校新1年生に配布予定。上村一郎支部長は「子どもたちの交通安全・防犯の意識が高まれば」と期待を寄せました。



男女共同参画ワークショップを開催

3月11日、布ナプキン制作のワークショップをTENAMU交流スペースで開催しました。イベントには14人が参加。講師に開業保健師の柏田ひろみさんを招き、制作をしながら布ナプキンの使い方や生理の悩みなどについて意見を交換しました。



1年間の地域魅力化の取り組みを発表

3月10日、小林西高校普通科の1・2年生が、総合的な探求の時間で取り組んだ成果を発表しました。生徒は1年生5チーム、2年生4チームに分かれて活動。TENAMUビルで開催したイベントや、野尻地区での活性化の取り組みなどを報告しました。



コロナ禍経て3年ぶりの開催 第43回すき花火大会



3月18日、新型コロナの影響で開催を延期していた「第43回小林市すき花火大会」が、須木中学校グラウンドで開催されました。

富永練実行委員長は、「8月に開催予定であった花火大会をコロナの影響で断念していました。必ず開催するという気持ちで企画を続け、ようやく開催することが出来て嬉しい」とあいさつ。

ステージでは須木中央保育園児のダンスや橘太鼓響座による太鼓演奏などを披露。メインイベントでは、会場近くの川沿いから打ち上げられる花火が頭上高く夜空を彩り、会場では拍手と歓声が上がりました。



当日の様子はこちら



Photo 1 メインイベントの花火 Photo 2 可愛いダンスで会場を沸かせた須木中央保育園の園児 Photo 3 園児を撮影する保護者 Photo 4 橘太鼓 響座の和太鼓演奏 Photo 5 会場の屋台を楽しむ来場者 Photo 6 会場までの道を照らす灯籠

誰もが孤立せず支え合える地域づくりを目指して講演会を開催

3月14日、誰もが孤立しない地域づくり講演会が文化会館で開催されました。地域から孤立する人が生まれないような地域づくりを目指すため、市社会福祉協議会が主催したもの。宮崎大学教授の境泉洋氏、ジャーナリストの池上正樹氏が登壇し、ひきこもり・8050問題への現状や対応、支援などについて参加者は理解を深めました。



池上さんは多くのひきこもり当事者と関わった経験から「ひきこもり状態は誰もがなり得る。みんなが当事者意識を持ち、理解してほしい」と話しました

こころの癒しライブでみんな元気に

2月26日、西諸地域障がい者家族会交流会「こころの癒しライブ」が開催されました。これは、精神・身体・知的障がいの関係者の心を元気にすることを目的に開催されたもので、参加者らはデジユリドゥ奏者の成澤けやきさんの歌や演奏に聞き入りました。



小林市畜産振興大会が4年ぶりに開催

3月9日、畜産振興大会が4年ぶりに文化会館で開催されました。市内の畜産農家や関係者など約390人が来場。都城家畜保健衛生所中森沙織主任技師の講演などがあり、参加者らは地域ぐるみの防疫体制の構築の重要性などについて理解を深めました。



いざというときの対処法を学ぶ 須木永田地区で救急講習会



講習会には永田地区の住民21人が参加。参加者は、マネキンとAEDを使って、救命方法の一連の流れについて学びました

3月12日、下田地区農業構造改善センター永田館で、中央消防署須木分遣所職員を講師に招き、永田地区救急講習会が実施されました。参加者は講話を聴いたあと、傷病者発見時の応急的な救命方法やAEDの操作手順について説明を受けました。参加者の川添忠弘さんは、「いざというときの対応について勉強になった」と話していました。

進学前にバスの正しい利用を学ぶ 須木中学生を対象に出前講座

3月13日、須木中学校の生徒12人を対象に、コミュニティバスや路線バスの乗り方を学ぶ教室を開催しました。同教室は、生徒が高校進学を機に通学などでバスを利用する機会が増えることから開催されたもので、宮崎交通株式会社の協力のもと実施。生徒は、疑似バス停を利用して降り降りする方法や料金の支払い方法などを学びました。



バスの乗り方教室は、学校だけでなく地域や団体を対象にも開催できます。希望する場合は企画政策課（TEL 23-0456）へ問い合わせください